



空気が乾燥する冬、そして暖かくなりだす春先は、空気環境にもっとも気を使いたい時期。特に狭い車内は空気がこもりやすく、空気の“質”が人体におよぼす影響も大きい。ここでは最適な車内空間を作り出す、空気のクリーンメニューを紹介しよう。

人体に影響をおよぼす空気の“質” “健康”というかたちで、必ず体感できる!

走行風を利用できる車内は、部屋に比べて空気の入れ替えがしやすい。しかしその反面、窓を閉めればそこは狭い密閉空間。冬の時期ともなると、窓を開けての換気が億劫になり、暖房をかけた車内は空気がこもって乾燥しやすくなる。ウイルスは乾燥した場所を好むため、風邪やインフルエンザにかかりやすくなる。

では、こまめに空気を入れ替えればいいかというところ、そうとも言えない。もちろん、新鮮な空気に入れ替えることはいいのだが、外気がいつでもキレイとは限らないからだ。都心部をはじめ、車社会の地域では排気ガスによって空気が汚れている。暖かくなるとくると花粉や黄砂が舞い、近年ではPM2.5の問題も騒がれている。さらに、日本では昨年の御嶽山噴火の記憶が新しいように、各地で火山灰が飛散……。これらの粒子状物質は体内に入り込みやすく、有害物質を含んでいることに加え、その粒子の角は鋭く尖っている。健康被害をおよぼす危険性が高いのだ。

これらを防ぐ理想の手段は、自分がある室内空間の空気を浄化すること。その点において、狭い車内は有効に働く。広い部屋に比べて、狭い車内は浄化率が高いからだ。ただし、ドアや窓の開閉頻度が多い車内は、そのぶん汚れた空気も入ってきやすい。だからこそ、部屋よりも気を使うべきなのである。

そこで導入しておきたいのが、車内の空気をキレイにするアイテムたち。手軽に使えるものから本格的なものまで、家庭用として存在するアイテムは、ほとんどカー用品としても用意されている。これらを利用するかしないかで、車内の空気の“質”は大きく変わる。空気という目に見えない相手となるため、効果のほどは分かりにくい。でも、見えない脅威だからこそ、対策が必要。その効果は、健康というかたちで、いずれ体感することになるはずだ。